

長期ステロイド使用後の全身浸出症状と蜂窩織炎を経て歩行が楽になった成人アトピーの経過 (30 歳 男性)

症例 ID：001-30-SMa | 記録日：2002 年 11 月 18 日

1. 診断・治療前経過

出生時からアトピーがあり、高校期には入浴後に全身へ赤い斑点が出るがありました。就職後、埃の多い環境や心理的負担を背景に症状が強くなりました。

20 歳頃から約 10 年間、定期的にステロイド外用薬を使用し、後半には強い外用薬とセレスタミンの内服も受けました。薬を中止すると全身が赤黒くなり、浸出液と強い痛みが出ました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	外用ステロイドを長期使用し、後半にはセレスタミンを内服しました。
製品名	セレスタミン。外用薬名は不明です。
強度	後半は強い外用薬を使用しましたが、詳細は不明です。
使用期間	20 歳頃から約 10 年間です。
中止時期	松本医院受診前です。
来院前／後	来院前に長期使用歴があります。来院後は使用していません。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
20 歳頃～	長期外用	症状の再燃ごとにステロイド外用を繰り返しました。
受診前	中止・悪化	全身が赤黒くなり、浸出液、痛み、下肢の腫れが出ました。
同時期	感染合併	足の創部から蜂窩織炎を発症し、約 1 週間入院して抗菌薬治療を受けました。
退院後	治療開始	抗アレルギー薬を中止し、煎じ薬、漢方入浴、抗ウイルス薬などによる治療を開始しました。
約 1 か月後	変化	掻いても浸出液が出にくくなりました。
約 2 か月後	経過中	浸出液がみられなくなり、全身の負担が軽減しました。
約 3～5 か月後	生活変化	皮膚の色と膝の深いしわが薄れ、歩行時の痛みが軽減しました。

4. ピーク時期

ピークは、薬の中止後に全身から浸出液が出て、下肢の創部から蜂窩織炎を発症し、歩行が困難となった時期です。

5. 困りごと

- 全身の浸出液で衣類が皮膚に付着し、着脱時に強い痛みがありました。
- 蜂窩織炎のため入院と抗菌薬治療が必要でした。
- 下肢の腫れと皮膚の亀裂により、歩行や関節の曲げ伸ばしが困難でした。

6. 経過のまとめ

治療開始約 2 か月後には浸出液がみられなくなり、3～5 か月後には膝の深いしわが減って歩行が楽になりました。通院を経て、日常生活の負担が軽減された症例です。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。